

大いちょう

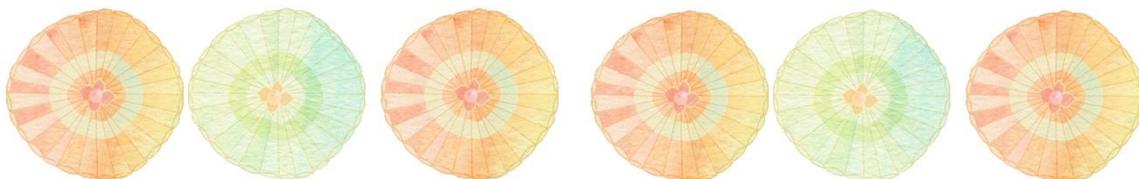
令和7年3月3日
岐阜市立加納幼稚園
園長 藤井 佐由美

生活楽しみ会及び懇談会にご参加くださりましてありがとうございました！



ちゅうりっぷ組と、ひまわり組の子どもたちは、初めての「生活楽しみ会」でした。当日までの取り組みの中で、なり切って遊ぶことや、楽器で音を鳴らすこと、歌うことなど本当に喜んで遊んでいました。日頃からなり切って遊ぶことが好きな子どもたちは、「医者」「警察」「学校の先生」「乗り物の運転手」「泥棒」「美容師」などなど、その都度イメージし、遊びに必要なものを先生と一緒にまたは、自分で作って身に付けて遊ぶ姿が多く見られました。それぞれが、どんな役になりたいか、自分で選択できたことがとても大切です。遊びの中で、役を変えることもできるなど柔軟に対応することにより、みんな自分でやりたい役を決めていました。子どもらしくなり切って遊んでいる姿を見ていただきたかったので、教師から多くは要求しませんでした。観ている人にお話が少しわかるように、簡単な台詞を考えて入れてみました。恥ずかしくて声にならない子どももいましたが、自分で作った食べ物の名前を言いながら「どうぞ」と言ったり、次に手伝ってほしい子どもを選択して、「〇〇ちゃ〜ん！」と名前を呼んだり「は〜い！」と応えたりしました。

参観していただいた当日には、恥ずかしくなって力を発揮しにくくなったお子さんもいらっしゃいましたが、特に3歳児は取り組みのプロセスが大切です。周りの子どもや先生とどんなふう楽しんできたのか、それがどんな経験となって蓄積されたのか、そこをポイントとして認めてあげていただけましたら幸いに思います。





たんぼぼ組やれんげ組の子どもたちは、様々な物語を演じる中で、気に入ったお話を決めてきました。取り組みの中では、役を変えて演じたり違うお話の役になることを楽しんだりしながら経験の幅を広げてきました。お話のストーリーを面白がったり、相手とのやりとりを楽しんだりして、お話や台詞を覚えることの面白さや、動きでその役を表現すること、声色を変えることなど、ステップアップしていきました。役作りに必要なお面や衣装、大道具なども自分たちで作ることに挑戦しました。慣れ親しんできたストーリーを身近な清水川の生き物に例えたり、普段のごちそう作りの経験を生かしてパンをこねるしぐさをしました。年少児のように、ひとりずつが順番に出てくるわけではないので、出番も理解し覚えながら演じるという、複数のことをこなしてなり切っていたわけです。取り組みの中で、「やりたい役をやらせてもらえない・・・」という思いのぶつかり合いも経験しました。言われた方も言った方も双方に思いがあって、それを丁寧に聞き出していく中で、クラスで「どうしたらよいのか」を考える貴重な機会となりました。完全にどちらかの意見に決める・・・という答えが出ることばかりではありませんが、困ったときにみんなで考えること、自分ごととして受け止めることが年中児にとって、必要な経験であると考えています。当日は、気持ちよく演じていた子どもが多かったようにも思います。

当日はもちろんのこと、ここまでの取り組みを想像してくださり、それぞれの頑張りを認めていただけたことと思います。本当に素敵なお子さんたちです。



いちょう組とさくら組の子どもたちは、「どんなお話で演じるか」について、家庭からもたくさんの絵本を持ち寄りみんなで相談しながら決めていきました。絵本のストーリーを覚えて、台詞を考えようとする子ども、日によってやってみたい役を交代しながら物語に入り込む子ども、慣れてきた頃に立ち位置や話す内容、相手とのやり取りなどが理解でき、面白くなってくる子ども、ストーリーに入り込ん

で気持ちを身体や表情で表現する子ども、大道具を作ることの面白さを感じる子ども、自分の衣装ができる嬉しくて何度も着飾って、他の先生たちに見せに行く子どもなど、それぞれの子どもが自分の好きなこと、好きなものを集めながら創り上げていきました。子どもたちが帰ると、他クラスの先生たちも年長児の保育室に集合して、子どもたちが作った作品の手直しをしたり、子どもが自分でできるように材料や道具を整えておくなど、先生たちもワクワクしながら『小人のくつや』になっていました。このように子どもや大人が一体となって創り上げていくプロセスが本当に楽しかったです。みんなの思いやアイデアがたっぷりつまった年長児の表現活動は、いかがでしたでしょうか。

それぞれの発達過程に応じて、子どもたちは、音楽を聴いたり、絵本をみたり、つくったり、かいたり、歌ったり、音楽や言葉に合わせて身体を動かしたり、何かになったつもりになったりなどして楽しんできました。これらの表現活動の中で、子どもたちは内面に蓄えられた様々な事象や情景を思い浮かべ、それらを新しく組み立てながら、子どもなりの想像の世界を思いのままに楽しんできたのです。また、日常生活の中で出会う様々な事物や事象、文化から感じ取るものやそのときの気持ちを先生や友達と共有し、表現し合うことを通して、豊かな感性が育まれます。

安心して自分なりのイメージを表現できるように教師が受け止めることを通して、子どもたちは、次第にイメージを共有し合い、相手と一緒にになって見立てをし、役割を決めて、それらしく動くことを楽しむようになっていきます。断片的な遊びの場面から、目的やストーリーをもった遊び方に変化し、共通のストーリーやルールを「こども会議」などを通して創り上げ、イメージを表現するために道具や用具、素材などを活用して、遊びに必要なものを作り、それらを使って今回の生活楽しみ会（表現の会）のプロセスを楽しんできたというわけです。

これらは、子どもたちが、自分たちの“好き”をいっぱい集め、自分自身に魅力を感じ、自分たちの魅力を周りに発信しようとする取り組みです。そこで、令和7年度からは、「生活楽しみ会」の名を改め、「魅せる会（表現の会）」とさせていただきます。よろしくお願いいたします。



《3月の保育について》

【3歳児】

- 自分の気持ちや感じたことをしぐさや言葉で表現する。
- 自分のことを自分でしながら、年中児になることを心待ちにする。
- 先生や友達と一緒に春見つけをしたり、体を動かしたりして遊ぶ。

【4歳児】

- 友達の中で自分を伸び伸びと表現し、共に過ごす楽しさを感じる。
- 先生や友達に自分の思いや考えを言葉で伝える。
- 年長児の生活を意識し、進級を楽しみにする。



【5歳児】

- 1年生になる期待と喜びをもって友達と一緒に遊んだり、共にいることを楽しんだりする。
- 自分なりの願いをもち、それを達成するために遊びや生活の中に様々な環境を取り入れ、遊びを創り出す喜びを味わう。
- 思いや考え、また経験したことを先生や友達と言葉で伝え合う。



お知らせとお願い

◆全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会団体保険制度 「園児まもるくん」について

これまで加納幼稚園は、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会に加入し、その下部組織として、岐阜県公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会に加入しております。その下部組織として、加納幼稚園PTA組織があります。

令和5年度末に、岐阜県公立幼稚園・こども園長会は、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会を脱会しました。しかし、令和6年度始めに、加納幼稚園PTA総会を紙面実施させていただき、加納幼稚園（岐阜東幼稚園も同様）として単一団体での再加入をさせていただきました。そのため、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会団体保健制度「園児まもるくん」加入の継続が可能となります。令和7年度当初にパンフレットを配布いたしますので、必要に応じてご加入いただけましたら幸いです。

◆虐待・性被害防止について

近年、職員による虐待や性被害などが話題となっています。子どもを真ん中におき子どもの主体性を大切にしている本園においては、あってはならないことであり、職員に対する研修等についてもしっかりと行っております。

お子様への対応について、気になることがあれば、担任だけでなく、園長をはじめとし、教頭、主任、養護教諭などお気軽にご相談ください。

また、虐待・性被害防止の対応について、幼稚園に相談しにくいことがありましたら、下記にご相談いただくことも可能です。

岐阜市教育委員会事務局 幼児教育課 TEL 058-214-7124

メールアドレス youji-kyouiku@city.gifu.gifu.jp